3分で納得！暮らしの中に学びあり

「ホームチームが有利」な本当の理由

2014/8/20

今年の夏はサッカーのワールドカップで始まりました。早朝に目を覚まし、出勤時間を気にしながらテレビ観戦していたのは随分前のことにも思えますが、決勝戦が行われたのは遂1ヶ月前のことです。そして、結果はご存知の通り、ドイツが圧倒的な強さで4度目の世界王者に輝きました。欧州勢としては南米開催のワールドカップで初めての優勝です。一方、地元開催で期待の高かったブラジルは準決勝敗退という残念な結果に終わりました。

今回のワールドカップでは必ずしも当てはまらなかったわけですが、殆どのスポーツではホームチームが勝利を収める確率の方が高いことが分かっています。では、なぜ「ホームチームが有利」なのでしょうか？

これにはいくつかの説があります。慣れ親しんだ気候やグラウンド、移動距離の短さ、観客の強力な後押し・・・こうした要素がプラスに働くことが考えられます。しかし、ある経済学者の研究*によると、ホームチームが有利なのは審判のジャッジが味方するからです。サッカーの場合、審判はホームチームよりもアウェーチームに対してより多くのファウルを取ります。また、ホームチームが負けている時ほどロスタイムを長く、ホームチームが勝っている時ほどロスタイムを短くする傾向があるそうです。

まさか八百長か！？と勘繰りたくもなりますが、決してそうではありません。審判は意図せずホームチームに有利なジャッジを行うのです。これは同調現象と呼ばれるもので、個人の思考や行動が多数派の意見に影響されることを指します。即ち、ホームチームの応援で埋め尽くされたスタジアムでは、どうしても観客の意向に沿った判定を下してしまうのです。そして、観客が多ければ多いほど、この傾向が強くなります。人間には周囲から好かれたい（または嫌われたくない）という欲求があり、審判の行動は観客からの圧力に対する自己防衛反応の一種と捉えることも出来ます。

同調は会社やビジネスの世界にもみられます。例えば、価値観や行動規範を共有することで組織を統括する方法は昔から良く使われてきました。また、会議の前の根回しは賛同者を事前に獲得するだけでなく、会議の場で反対意見が出にくい状況を作り出します。ただ、同調のデメリットを認識する必要もあります。新しいアイディアや革新的なビジネスモデルは異端や多様性の中から生み出されるもので、同調はこうした可能性を阻害する要因になりかねません。周りに流されやすい人間の性質を理解しつつ、信念に基づいた行動を貫くことが成長や発展につながるのではないでしょうか。

*（参考）” SCORECASTING: The Hidden Influences Behind How Sports Are Played and Games Are Won”, Tobias Moskowitz & L. Jon Wertheim, Three Rivers Press

担当	丸紅経済研究所 シニアアナリスト　井上　祐介	ＴＥＬ：03-3282-7945 E-mail: Inoue-Y@marubeni.com
住所	〒100-8088　東京都千代田区大手町１丁目４番２号　丸紅ビル 12 階　経済研究所	
WEB	http://www.marubeni.co.jp/research/index.html	

（注記）

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。
- 本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当社の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。